

参加無料

NASA

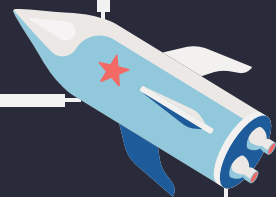
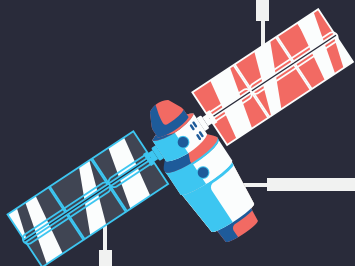


INTERNATIONAL
SPACE APPS
CHALLENGE

TOYOHASHI

SPACE APPS CHALLENGE

全世界同時開催の NASA 公式プログラムのハッカソンです。
NASA や JAXA などが公開している宇宙・地球環境・衛星関連のデータを使ったアプリ等を開発します。2019 年は世界 71 ヶ国・225 拠点で開催され、約 2.9 万人が参加しました。豊橋会場は 2018 年に SpaceAppsChallenge を初上陸させて以来、3 回目の開催となります。



開催日時

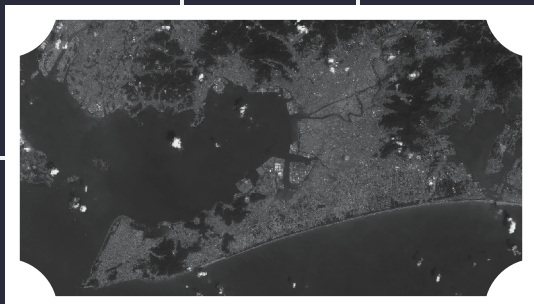
2020.10.3^{SAT} & 2020.10.4^{SUN}
両日ともに 10:00-17:00

参加定員

30組 対象年齢：全年齢
※オンラインイベントに参加するスキルは必須となります。
必要機材：パソコンまたはタブレット必須

会場

オンライン開催 (Zoomなどを利用します)



#SpaceApps
#SpaceAppsToyohashi

@SpaceAppsToyohashi

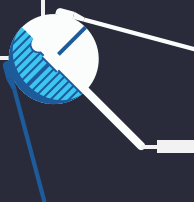


発表会モデレーター

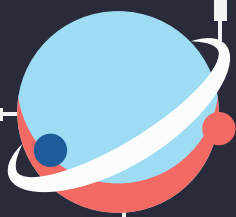
オスカープロモーション所属

女優・タレント・元AKB48

前田亜美
まへだあみ



TAKE ACTION



参加申込

QRコードから
お申込み
いただけます



NASA
INTERNATIONAL
SPACE APPS
CHALLENGE
TOYOHASHI

What is a hackathon?

ハッカソンとは

ハック (Hack) とマラソン (Marathon) を組み合わせた言葉です。エンジニアやプログラマー、学生にデザイナー、課題を持った人、プレゼンスキルを磨きたい人など、多種多様なバックグラウンドを持った人たちがグループを作り、議論や共同作業をしていく参加型のイベントです。提示されたテーマに対して決められた時間の中で、自分たちのスキルを活用してアプリケーションやハードウェア、課題を解決するための提案など、プロダクトと呼ばれる成果物を作り上げます。

The flow of the hackathon

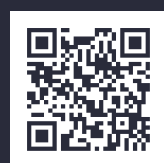
ハッカソンの流れ

 team building / チームづくり

 idea generation / アイデア出し

 prototype development / 試作開発

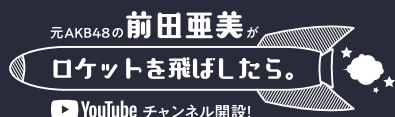
 output / 成果物アウトプット



ハッカソンへのお申込みはこちら！

参加定員 30 組
QRコードからお申込みいただけます。

<https://spaceappsjapan.connpass.com/event/152277/>



主催・お問い合わせ

株式会社サイエンス・クリエイト
愛知県豊橋市西幸町字浜池333-9

担当者 勝間 (かつま)
TEL 0532-44-1111
MAIL soramikawa@tsc.co.jp

HACKATHON SCHEDULE

2020.10.3 SAT

- 10:00 ● Event start イベントスタート
アイスブレイク / チームビルド
- 11:00 ○ Development time 開発タイム
休憩は各チームごとに自由にお取りください。
- 16:00 ○ Interim report 中間発表
- 17:00 ● End of day one. 1日目終了

2020.10.4 SUN

- 10:00 ● Development time 開発タイム
休憩は各チームごとに自由にお取りください。
 - 17:00 ○ Presentation of results
成果発表会
 - 18:00 ● End of hackathon.
ハッカソン終了
データ格納 / 解散
- ※ スケジュールは変更になる場合がございます。



Participation Guidelines

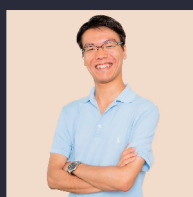
参加要項

宇宙やハッカソン・プログラミングなどに興味がある方ならどなたでもご参加いただけます！

本イベントでは参加者同士でチームを組んで、アプリケーションやハードウェアなどの“プロダクト”を作り、成果発表会で各チームでプレゼンを行っていただきます。私でも参加できるかな？とお悩みの方は、まずはお問い合わせください！なお、“プロダクト”は公開することとなります。

Mentors

メンターの紹介



慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科

西野 瑛彦 後期博士課程 / 助教 (研究奨励)

衛星測位技術を活用した防災システム設計とアジア地域における評価に従事。若手研究者や企業関係者を対象としたアイデア創出ワークショップや、小・中学生や大学生を対象とした人材育成プログラムにおけるファシリテーションを国内外で実施。



名古屋大学 宇宙地球環境研究所 附属飛翔体観測推進センター所属

高橋 暢宏 教授

人工衛星搭載レーダや地上設置レーダなどを用いた研究として、ハードウェアと気象学の間を取り持つアルゴリズムの開発等を行う。また、全球降水観測計画 (GPM) 主衛星搭載二周波降水レーダや CloudSat 搭載の雲レーダ、フェーズドアレイ気象レーダ等の地上レーダを用いた解析研究を行っている。



名古屋大学 宇宙地球環境研究所 海洋学研究室所属

石坂 丞二 教授

衛星リモートセンシングや海洋観測、過去のデータ解析などの手法を使って、植物プランクトンによる海洋の一次生産の変動を研究。地球全体から内湾までの幅広い空間スケールの現象について、水循環をはじめとした気候変動や人間活動との関連を中心に考察を行っている。